川口のこともっと知りたい！行って、見て、聞く！川口の活動を活発にお届けする季刊報

川口活動新聞

かわ活！

KA WA KA TSU

2017 秋号

KAWAGUCHI ACTIVITY NEWS!

2017 年 10 月 1 日発行

まちづくり 街を創る職人
川口市議会議員
いかり やすお
碇 康雄
IKARI YASUO

碇 康雄 URL：http://ikariyasuo.com

2017 秋

No.5

今号の目次

1 グリーンセンター+樹里安
2 伊奈氏と赤山
3 市政報告

ここ
行ったこと
ある？

行って、見て、聞く！

川口活動新聞=「かわ活」は、意外と知らない?とっくに知ってる?川口のスポット、お役立ち情報から、川口の行政はどのようなことをしているのか?まで「街づくり職人」碇 康雄が実際に行って、見て、聞く!の情報を皆さまにお届けします。
川口市民の皆さまにはより深く、市外の方にも川口のことを知ってもらえるような紙面を目指します。

こんな
サービス
知ってた？

行政は
どんなことを
しているの？

行政はどんなことをしているの？

市政レポート

9月議会のポイント

市議会は、年4回、それぞれ約1か月の会期で開かれます。今年3回目、9月議会が終了しました。

新市立高校の奨学金制度

川口市立の3校（県陽高校、総合高校、川口高校）を再編して、平成30年4月に開校する高校です。県内トップクラスの高等学校となることを目指し、普通科11クラスに加え、国公立大学や難関私立大学への進学を想定した理数科を設置します。9月議会では、奨学金制度基金を創設するための一億円の補正予算が提案されています（このほか市民からの寄付も募集する計画です）。この奨学金は、国立大学に入学した生徒を対象に入学金相当額（30万円15名、医学部の場合100万円）を、そして、米国オハイオ州フィンドレー高校への留学資金の一部を支給するというものです。

新校建設予定図（仮）

支給資格が大学合格者に限られていますが、卒業して社会人になる生徒も多いなか、公平性の観点から、すべての生徒を対象にすべきだと考えます。

火葬場と歴史自然公園

「川口市めぐりの森」（火葬場）は、平成30年4月に供用開始の予定となっています。隣接して設置される歴史自然公園は、緑の中に池を配置、歴史自然資料館や地域物産館を設置し、実施設計では、年間350万人の来訪を見込んでいます。9月議会では、駐車場用地（50台分）の購入費5800万円、歴史自然資料館展示物作成委託料約1500万円の補正予算が提案されています。

全体俯瞰図

歴史自然公園の開園時間は、9時～5時に限っていますが、高速道路川口PA利用者の来訪を見込み、より多くの人に散策してもらい、川口を知ってもらうための施設として、なるべく長く開園すべきです。せめて日没ぐらいまで開園するよう求めています。

学校選択制の廃止

川口市の小中学校では、一定の条件のもとで、学校を選ぶことができる「学校選択制」がとられています。しかし、学校間で児童・生徒数の不均衡が生まれたり、地域と学校の関係が希薄化などの課題が指摘される中、見直しを求めてきましたが、平成31年度からは原則として基本学区の学校に入学することになりました。

保育の安全強化に向けて

今年3月に出された「保育施設等事故検証委員会報告書」で示された提言を実行に移すために、保育時にお昼寝中の乳児の異常をいち早く見つけるための「呼吸モニター」を認可外保育施設が導入するための補助金や、保育士を補助する人員を雇用するための補助が計上されています。多忙な保育士の負担を少しでも軽減することは、保育の質を上げ、事故を防止するために大きな意味があります。しかし、抜本的な改善のためには、市独自の人員配置基準を作成し、実現のために補助をするなど、より積極的な対策が必要だと考えます。

防犯カメラの増設

町会・自治会が設置する防犯カメラに対し、一台当たり20万円を上限として、補助が行われています。平成28年度は150台分が支出され、29年度も150台分が予算化されていますが、設置したいという要望が多いため、9月議会に、さらに34台分の増額補正が提案されています。

来年度は、これまで設置した防犯カメラの効果を検証するため、新たな補助は行わないとされていますが、今でも、防犯カメラ設置の希望は多く、引き続き補助を継続するよう求めています。

「平成28年度決算」は付託

9月議会には、平成28年度決算案が出されています。決算案では、一般会計が、予算額約2032億円に対し、支出額約1879億円、特別会計は合計で、予算額約1584億円に対し、支出額約1498億円となっています。決算案は、10月16日から始まる決算委員会に付託され、その審査結果を待って12月議会で採決されます。私も決算委員の一人として、審査に参加します。

二元代表制の一翼を担う議会として

二元代表制とは

地方自治法は、執行機関である市長と議決機関である議会が両輪となって市政を運営する二元代表制を定めています。

「広報かわぐち」9月号において奥ノ木市長は、「二元代表制～政策提言型議会への期待～」と題した文章を掲載しました。その中で市長は、議会の役割として、❶政策提言機能と、❷市長の政策や予算のチェックを行う「監視役」としての機能とをあげています。

❶議会の政策提言機能

議員は、提出されている議案や市政一般の問題について質す議場での一般質問や職員との日常のやり取りを通して、様々な提案をすることができます。もう一つ、議会が持つ最も大きな権限として、条例制定権があります。議会は、条例を制定することによって、市の政策の基本方針を定めることができます。

◆犬猫の殺処分「ゼロ」を目指す

現在、市議会では、（仮）動物愛護条例の検討が進んでいます。平成30年4月、川口市は中核市に移行し、県から多くの事務が移譲されます。その中のひとつが、飼い主に必要とされない犬や猫、飼い主がいない犬や猫に関する事務です。埼玉県の場合、年間1170匹の犬猫が殺処分されています（平成28年度）。埼玉県では、殺処分「ゼロ」を目指して取り組んでいますが、新たに事務移譲を受ける川口市でも同様にそれを目指してゆきます。

❷「監視役」としての機能とは

市長の政策や予算のチェックすることは、議会の重要な機能です。これは42人の議員がそれぞれの立場や視点で質問をすることです。質問は、議場での一般質問や日常の職員とのやり取りの中で行われます。そうした市長と議会とやり取りを、議場や市政報告の場などで見ることによって、有権者は、市政がどのように行われているのか、今の課題は何かを知り、評価できるのではないでしょうか。

市議会は「監視役」としての機能を十分に果たしているか

公開の場で、直接、市長に質問することにより、「監視役」としての機能を全うすることができます。質問することは、「対立」ではありません。より良い市政を実現するための「協働」ともいえるものです

市長が期待するような「二元代表制」をこれまで以上にしっかり機能させるために、議員一人一人が迎合することなく、「監視役」としての役割をはたす必要性を改めて感じます。

行ったことありますか？

川口のここ！

◎川口市立グリーンセンター

祝・開園50周年！

どんな施設？

川口駅よりバスで約25分、埼玉高速鉄道新井宿駅からは徒歩約10分。新井宿にある「グリーンセンター」は、川口市民にとって馴染みの深い施設の一つではないでしょうか。四季折々の緑や花が楽しめる憩いのスポットです。

今年開園50周年を迎え、開園月である11月の土日祝日は、記念式典やイベント等が企画されています。中庭コンサート、老若男女が楽しめる市民ステージ、鉄道模型展など、にぎやかに開催する予定です。

熱帯植物が一年中観察できる大温室。職員の皆さんと

◆グリーンセンターの歴史

昭和21年に川口地区指導農場として誕生し、農業の後継者育成を目的として運営を開始しました。その後、昭和42年11月1日に「グリーンセンター川口市立花木植物園」として開園しました。ちなみに同年9月開催された「埼玉国体夏季大会」で、現在の天皇皇后両陛下（当時は皇太子同妃両殿下）が宿泊されたのが、園内にあるお城のような建物の大集会堂「シャトー赤柴」の貴賓室です。

今回の記念式典はシャトー赤柴の中庭で行われ、当時の写真等を展示する「貴賓室公開展」も開催を予定しています。

シャトー赤柴

お話をうかがいました

川口市民ならば、誰でも知っているグリーンセンター。その魅力は、緑の広大な空間。川口市民だけでなく、東京からも多くの集客がある人気スポットです。年間54万人の来園者を誇ります。

まず、足を運んだのは、噴水と広々とした花壇。職員さんも「四季折々の花が見どころ」とおっしゃっていました。その奥には3つの大温室があり、それぞれ「熱帯」「水生」「サボテン」をテーマにし、そこではバナナ、タコノキなど、普段見られない植物たちが迎えてくれました。

この施設の魅力は、植物だけではありません。昭和60年に設置された「わんぱく広場」の大滑り台。高さはなんと35ｍもあり、ひとつの目玉となっています。スタッフ2人が見守っていて、安全面の配慮もしっかり。この日は子どもたちに混ざって、スリル満点の体験をさせていただきました。子どもには、わんぱく広場のほか、夏はプール、冬はスケート場も人気とのことでした。

開園50周年を迎えるグリーンセンターの一番の悩みは、「老朽化した施設の維持管理」とのこと。様々な工夫を重ね、多くの市民に愛されてきたグリーンセンターには、次の50年に向けて、川口市の観光拠点としても、新しい魅力を開発・発信していくよう期待しています。

施設利用料金、イベント等については
下記ホームページをご覧ください

川口市立グリーンセンター
川口市新井宿700
☎048-281-2319
開園時間:9:00～17:00
http://greencenter.1110city.com/

◎川口緑化センター 樹里安（じゅりあん）

マスコットキャラクター“ジュリアン”

どんな施設？

川口駅よりバスで約40分、外環自動車道沿い、安行にある「樹里安」は、道の駅「川口・あんぎょう」と併設している、緑化関係の総合施設です。

川口の伝統産業である「植木・花と造園」の特産農業の振興を図り、緑化産業のための各種情報の収集、発信を行っています。

ガラス張りで開放感のある1Fアトリウム

◆プロから一般の方まで

1階の巨大なアトリウム（温室風の建物）は、多目的ホールとなっており、ガラス張りの高い天井で開放感があります。5百種類以上の植木や花鉢、生花が並び、一般の方も気軽に購入できます。四季折々イベントを開催しており、春はスプリング緑花感謝祭、夏は朝顔・ほおずき市、秋は紅葉展、冬は松竹梅の植木寄せ講習会など、各方面からの来場者で賑わいます。

館内にある「安行原の蛇造り」

アトリウムの隣には「道の駅」情報ターミナルを置き、周辺の地域イベント、観光情報を案内しています。

屋外の植木の資材売り場には多くの観葉植物、園芸用品、草花の苗を販売し、樹里安に来れば何でも揃うというほど品揃えが豊富です。

2階には緑に関わる情報を提供する資料館とレストランがあり、くつろげる空間となっています。

3階以上は緑化関係の資料が揃う情報センター、貸し会議室、日本庭園などがあり、会議、セミナー等様々な事柄に利用できます。

◆目の前には野菜の直売所

樹里安の目の前には、JAさいたまの「安行農産物直売所」があり、安行で収穫された農産物を求めて、都内からも多くの人が訪れる人気の直売所となっています。

お話をうかがいました

駐車場に車を駐めて、まず目に入ったのは、美しい曲線をもったアトリウムでした。

安行で育てられた植木だけでなく、全国各地から集められた植木が陳列・栽培されています。アトリウム内を一望できる2階部分にご案内いただきましたが、多様な植物の中で、まず目についたのは、高さ10ｍはありそうなベンジャミン。デパートなどで、特別な飾りつけに使うものだということでした。

樹里安は、道の駅でもあります。県内20か所の中で3番目に古く、県南では唯一の道の駅です。利用者は年間72万人に達し、休日には、駐車場がいっぱいになってしまうほどだそうです。

樹里安を「植木を目的に訪問する方も多い反面、道の駅だから寄ってくれる方も多く、道の駅との相乗効果がある」とのこと。川口市の南部に住んでいる市民にとっては、どうしてもなじみが薄いのですが、きらりと光る情報発信の施設です。

施設利用料金、イベント等については
下記ホームページをご覧ください

川口緑化センター 樹里安
川口市安行領家844-2
☎048-296-4021
営業時間:9:00～18:00
http://www.jurian.or.jp/

photo：兼先 勇

実はすごい！

川口の歴史

◎伊奈氏と赤山

伊奈氏とは？

◆関東平野の礎を築いた伊奈一族

伊奈忠治像

戦国時代から江戸時代初期、伊奈一族は代々徳川家康に仕え、初代伊奈忠次（ただつぐ）から、13代2百年余にわたり、幕政の発展に貢献しました。伊奈氏が就いた関八州代官頭（いわゆる関東郡代）は、相模・武蔵・上野・下野・安房・上総・下総・常陸の8カ国。現在の関東1都6県とほぼ同様の広大な範囲でした。

忠次の次男で3代、忠治の時に「赤山陣屋」を築き、赤山が新田開発や河川改修事業の拠点となりました。

宝永4年（1707）、富士山噴火の際、5代忠順（ただのぶ）は餓死寸前の被災者の人々の救済に努め、庶民から讃えられました。救われた庶民たちは忠順を慕い、建てた祠が「伊奈神社」となり、その遺徳は今に語り継がれています。

伊奈神社（静岡県駿東郡）

寄稿

赤山陣屋と伊奈氏

来年4月に「赤山歴史自然公園」が開園しますが、来年は奇しくも伊奈忠治（通称：半十郎）がこの赤山に領地を賜ってちょうど4百年になります。江戸時代初期に今につながる関東のインフラを整備した幕府代官伊奈氏の業績は極めて大きいですが、ほぼ無名なのでこれを機会に大いにその業績を知ってほしいと思います。

赤山は忠治が賜った当時は無高に等しい荒野で、伊奈氏自ら切り開いて陣屋を築きました。この陣屋は赤山領や代官支配地の官庁として重要な役割を担っており、馬喰町の伊奈家役宅からの触書などはこの赤山陣屋を通じて各支配地に通達されました。伊奈氏の代官支配地はその大半は武蔵国東部と下総国西部の天領であり、川口も含めこのあたりの庶民にとって赤山陣屋は行政の中心地でした。ゆえに赤山に通じる道はすべて赤山街道といい、それぞれの道を伊奈氏の役人、各村の村役人等たくさんの人々が往来し、往時の赤山陣屋は相当な賑わいだったと思われます。

伊奈氏の業績は利根川東遷を始めとする河川改修や新田開発、災害復旧など多岐にわたりますが、最も知ってほしいのはその精神です。幕府役人として忠節を貫きながらも庶民の側に立ち続けました。実際に伊奈家のある当主は「百姓のために代官が罪に問われても少しも恥ではない。」と言い切っています。関東の庶民から「伊奈様」と慕われたこの矜持こそ郷土の誇りだと思います。

（新井宿駅と地域まちづくり協議会：大戸昭広）

赤山城跡のお堀

お話をうかがいました

◆新井宿駅と地域まちづくり協議会
地域資源を活かし、川口の活性化

埼玉高速鉄道（SR）の新井宿駅周辺に住む市民を中心にしてまちづくりを進めています。新井宿駅周辺は、自由に建物が建てられない市街化調整区域が多いことから、農業を活かした地域づくりを目指して活動しています。域内農家が栽培した野菜を「かみね野菜」としてブランド化、「新井宿まちづくりフェスタ」や収穫体験などのイベントを開催して、販売するほか、身近な植物を使って染色をする草木染めを研究する工芸部や、江戸時代この地域に屋敷を構えた伊奈家の業績を研究する歴史部など8つの部会に分かれて活動しています。

こうした活動の背景には、近世以降の川口と江戸・東京の関係を見直し、地域の魅力を再確認することによって、郷土に対する愛着が深まるだけでなく、その魅力を広く発信することによって、東京からも多くの方が訪れてくれるようになるのではないかという戦略です。（会長 鈴木常久氏談）

新井宿駅がある神根地区などを除けば、川口市は市街化が進んでいます。特に京浜東北線の沿線には、農地もほとんどないのが現状です。そうした中で、芝地区で市内産の新鮮でおいしい野菜を販売する「じもと野菜まつり」に野菜を提供し、今年で3回目となりました。市内野菜の地域内循環のためのささやかな取り組みです。

協議会は、平成13年、新井宿駅開業とともに発足、6年前に運営体制を強化しました。川口市内で、最も成果をあげている活動といえます。市民のまちづくり活動のモデルとして、今後も着実に広がることを期待します。

「赤山歴史自然公園」と火葬施設

◆首都高初の〝パイウェイ オアシス〟

首都高川口PAに、火葬施設と、それに隣接する自然公園の整備が現在行われています。

水と緑に囲まれた赤山の自然を活かし、歴史上由緒あるこの地に因んだ水辺に佇む施設として、都市農業の再生、地域活性化、自然環境の保全を目指しています。平成30年4月開園予定。

市内も市外も駆けつけます！

視察とお知らせ

7、8月に行った視察の一部報告

◆大雨による冠水

7月4日の大雨の時の芝地区の状況。芝中央通り、芝銀座通りは一部冠水。堅川はほぼ満水。市内の下水は、55㎜／時間の雨を排水できるように設計されていますが、それを超える雨が降ると、低いところに水が溜まってしまいます。

ほぼ満水の堅川

◆野菜の地域生産・地域消費

愛媛県今治市に、野菜の地産地消と食育についての視察。

地元野菜の販売施設では、年間30億円を売り上げるとのこと、価格も安いです。給食で地元野菜を使い、需要を作って行ったところに鍵があるのかなと思いました。

◆水害についての研修

北区の教職員の水害についての研修を見学しました。会場は、荒川下流河川事務所の災害対策室。降雨時には、水害対策の司令塔になる部屋です。

参加した先生方は、それぞれの学校で、より良い防災教育の実施や災害時の子どもたちの安全確保のための取り組みを進めていきます。川口でも実施して欲しい研修です。

◆戸田競艇

今年度、戸田競艇事業団議会の議員を兼任します。戸田ボートからは、戸田市に5億円、川口市・蕨市にそれぞれ2億5千万円の配分金があります。川口オートから市への配分金は2億円。

あなたの声をお聞かせください！

碇 康雄 事務所で市民相談会を行っています

市への要望や疑問など、川口の「まちづくり」のために、
市民の皆さまの声を直接伺い、一緒に考える相談日を設けております。
どなたでも気軽にお越しください。

日時 毎月第1・第3 火曜　午前10～12時　**場所** 下記「碇康雄事務所」

※相談日に限らず、月～金曜10～12時、局員在室しております。お気軽にお立ち寄り下さい！
※日程は変更の可能性があります。下記までお問い合わせください

◎相談内容の一部報告

◆外国人の不法滞在、不法就労について

Q 川口市内に不法滞在、不法就労の外国人が増えてきています。納税をせず、川口市の福祉を享受してます。治安の面でも心配です。不法滞在外国人の対策をとって下さい。

A 川口市の外国人比率は、市全体の5％、人口では全国で3番目に多くなっています。法務省によれば、日本に入国したものの、在留許可期間を過ぎても出国していない不法滞在者が6万5,000人います。こうした不法帯滞在者には、しっかりとした対策が必要です。
しかしながら、市内に住む大多数の外国人は、合法的に滞在し、日本人と同様に仕事を持ち、納税もしていることを忘れてはなりません。互いに文化や習慣を知り、尊重し合う「多文化共生」型のまちづくりが大切だと思います。

◆救急車の配置について

Q 芝地区蕨駅西口の芝園消防分署は、唯一救急車が配備されていない消防署です。救急車の配備を要望します。

A 京浜東北線の陸橋を渡る分だけ救急車の到着に時間がかかることを指摘してきました。このたび、救急車が配置されることになりました。これによって、川口市の救急車は13台体制になります。

川口市議会議員 **碇 康雄 事務所**

〒333-0866 川口市芝2-5-24
TEL 048-268-2696
FAX 048-437-5585
（TEL、FAXの変更はありません）

http://ikariyasuo.com
info@ikariyasuo.com

◎編集ボランティア大募集中！
お問い合わせください

川口活動新聞「かわ活（かわかつ）」 ◉発行：川口市議会議員 碇 康雄　◉碇 康雄後援：田口 徹、三橋由美
◉構成・編集・デザイン：古谷悠子　◉取材写真：兼先 勇　◉編集：池上真佐子、栗原まゆみ
◉取材協力：川口市立グリーンセンター、川口緑化センター 樹里安
◉「赤山陣屋と伊奈氏」寄稿：大戸昭広（新井宿駅と地域まちづくり協議会）